

一三エース専修

毎月1回15日発行
(定価一部590円)
発行所
専修大学広報課
〒101-8425
東京都千代田区
神田神保町3-8
☎03-3265-5819(直)

主なニュース

- 矢野建一学長を悼む 3氏が追悼寄稿……………②
- 育友会定期総会 新会長に出雲高志氏/今村力三郎展……………③
- 石巻専修大学特集 尾池守学長・3学部長メッセージ……………④
- 就職活動状況/OBインタビュー……………⑤
- キャンパスライフ/サークル紹介……………⑥
- 学校法人専修大学平成27年度決算概要……………⑦
- ……………⑧
- ……………⑨



熊本地震で被災された皆様へ
熊本地震により被災された学生及び保護者の皆様は心よりお見舞い申し上げます。本学では自然災害による被災世帯学生に対し経済的支援を講じています。また、日本学生支援機構奨学金(緊急・心急)の申請も受け付けています。該当の方は罹災証明書を持参し、左記窓口にてご相談ください。
【一部学生】生田学生生活課 【一部学生】二部事務課
【大学院生】生田大学院事務課 【神田大学院事務課】
【法科大学院生】法科大学院事務課

アカデミック・コンシェルジュ新設

法学部 院生が相談相手



今年度から始まった法学部の「アカデミック・コンシェルジュ」。大学生活について幅広く相談に応じる

法学部は今年度から、安や疑問に幅広く対応、解決に向けてともに相談に応じる「アカデミック・コンシェルジュ」制度を始めた。授業やレポートの作成、将来に向けたキャリア形成をはじめ、大学生活に関する不

安や疑問に幅広く対応で相談に当たっている。5月17日から担当した古屋波さん(院法修1)の元には毎週2、3人が相談に訪れた。「キャンパス内のどこに何が有るといったことから学修上の悩みまで、学生と同じ目線でアドバイスしています」と語る。自身も1年次では履修のバランスについて、2年次ではゼミ選択について悩んだ。1、2年次ではまだ先生方と距離が有り、なかなか相談できなかった。コンシェルジュのような制度があれば、学生は助かると思いきや、その場で解決することが難しい問題も、教職員や適切な窓口につなぐ

ことができる。古屋さんは「まずは気軽に立ち寄ってみて」と呼び掛ける。瀧本将太郎さん(二部法2)は専門科目の勉強方法など細かくアドバイスを受けた。「刑法をどう勉強したらいいか悩んでいたが丁寧に教えてもらい助かった」と笑顔をみせた。

前期は7月21日までの毎週木曜日に実施。メールでの事前予約も受け付けている。
E-mail: law-ec@acc.senshu-u.ac.jp
law-ru.ac.jp



今年1月に引退した大相撲元幕内・大道の小野川親方(本名中西健二さん、平17経営)の断髪式が6月4日、東京・両国国技館で行われ、日高義博理事長ら約500人がはさみを入れた。

元幕内の大道関断髪式 日高理事長ら500人はさみ
小野川親方は専大相撲部で活躍。卒業と同時に阿武松部屋に入門し、2010年春場所所で新十両、11年名古屋場所所で新入幕を果たした。幕内には連続13場所在位し、最高位は東前頭8枚目。断髪式では日高理事長が「小野川親方にとって大きな節目の日。今後とも後輩の模範となしてほしい」と語り、

い」とあいさつ。日高理事長に続き、富山尚徳副理事長、小宮多喜次校友会長、甘竹秀雄校友会名誉会長、同期卒のボクシングWBC世界王者の山中慎介さん(平17商)ら校友・専大関係者や、貴乃花親方(元横綱)らが次々とはさみを入れた。阿武松親方の止めばさみで大銀杏に別れを告げた小野川親方は「厳しい師匠に育てられ、実力以上のものを生かした」と語った。

三崎稲荷神社例大祭 SKVが神輿担ぎ



神田神保町一帯を彩る三崎稲荷神社(東京都千代田区)の例大祭。5月4日に町会の「御神輿巡行」が行われ、SKV(専修神田ボランティア)メンバー5人が神輿を担ぎ、祭りを盛り上げた。写真。例大祭は隔年で催される。神田キャンパスがある神保町三丁目町会から「専大生も一緒に担がないか」と話があって実現。JR水道橋駅前の同神社を出発、神輿は周辺9町会を練り歩き、神田キャンパスの前では、「ソイヤ」「セイヤ」とひととき威勢のいい掛け声が響いた。SKVは日ごろから防災、清掃など地域貢献活動を実践。町会と「顔の見える関係」を築いている。代表の寺澤陸さん(法3)は、「担いだ肩の痛みはきつかったけれど、とても貴重な体験だった。今後も地域活動に積極的に参加し共助の関係性を強くしていきたい」と気持ちも新たに語った。

文学部 50周年

文学部創立50周年記念企画のトップを切って、専修大学心理教育相談室の歩みと地域貢献を紹介するシンポジウム「このころの付き合い方・地域に根ざす相談室として」が5月28日、サテライトキャンパスで開かれた。同相談室は1993年に文学部心理学科(2010年から人間科学部に移行)の教員が中心となり大学院教育の一環として開設。教員やカウンセラー、大学院生など専門スタッフが一般の人から寄せられる心の悩みに対し相談に応じている。現在は生田11号館に設置され、地域に開かれた相談室として定着。年間相談件数は延べ2000件に上る。

記念企画第一弾 心理教育相談室がシンポジウム

0万人であるとし、社会参加につなげる息の長い支援の必要性を語った。昨年3月まで13年間、母子サークル「多摩っ子」を主宰した吉田教授は、



「高出生率を誇る川崎市の手厚い子育て支援を評価する一方、課題を指摘した。岡村教授は事故や脳疾患の後遺症で思考や記憶、判断力などに障害を負った中高年のために認知訓練教室を開設。「同じ境遇のひととのグループ訓練は参加者の励みになっている」と説明した。一つの認知行動療法を行っている国里准教授も「自分の振る舞いや考え方を考え、取り巻く環境からのストレスを軽減する認知行動療法はグループで行うとより効果的」と語った。写真。

SNSで受験生に情報配信

専修大学入学センターは、SNSの「LINE@ (ラインアット)」とツイッターに公式アカウントを開設した。受験生や高校生に向けて、入試情報を中心に、受験に役立つ情報を配信している。LINEで情報入手するには専修大学入学センターと友だちになる必要がある。ラインIDの「@senshu」で検索するか、QRコードを読み取れば、「友だち」に加えることができる。ツイッターでは、大学のイベント情報のほか、各地の進学相談会や入試広報の取材の様子なども知らせている。アドレス
https://twitter.com/senshu_univ_a0

